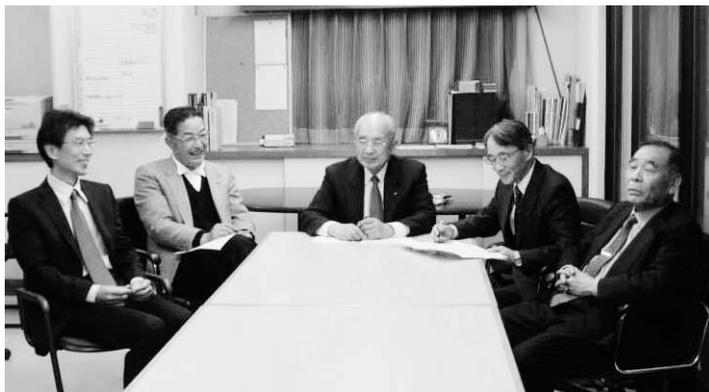


知道 CHIDO-KAIHO 会報

68

編集 知道会広報委員会
〒310-0011 水戸市三の丸 3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内
発行人 西野虎之介
発行日 平成18年5月15日
通巻 第68号
メール chidou@world.odn.ne.jp

目次	企画	座談会・これまでの10年 これからの10年	1
	一高だより	大学入試、職員異動状況、卒業生褒賞	4
	同窓会・支部だより	東京知道会50周年同窓会ほか	6
	PERSON	映画撮影監督の川又昂氏	7



なごやかに行われた知道会館での座談会

本校は平成20年(2008)、創立130年を迎える。これまで、100周年、110周年、120周年と、10年毎に記念事業を実施してきたが、去る3月、130周年記念事業実行委員会が、西野会長を座長に、幹事長・各委員会の委員長をメンバーとして結成され、記念事業の具体的な検討に入った。そこで、今回は、130周年記念事業を実施する意義と、「至誠一貫 堅忍力行」の校訓で表されている、130年という時間の中で培われてきた水戸一高の精神をどう継承して行くのかなど語ってもらった。

座談会

これまでの10年 これからの10年

座談会出席者
西野虎之介会長(昭23卒)
沼尻滋副会長(昭27卒)
山形晴一前幹事長(昭29卒)
五味田優校長(昭42卒)
栗原英則副幹事長(昭48卒)

栗原 まず130周年を迎えるに当たって、知道会としてどのような事業を実施していくのか、またその意義について伺います。

山形 これまでかかわってきた110周年では生徒の海外派遣事業、120周年には江山閣の建設事業をそれぞれメインの事業として行ってきた。知道会という同窓会組織が在校生達に何を残せるかを基本に、士気高揚資金を募り、多くの協力を得て実施し、当時の在校生には世界に目を向ける契機となったと思うし、江山閣という歴史ある施設を一新し、目に見える形で残すことができたと思います。

沼尻 その後、海外協力隊や外語大を目指す生徒もいたようだ。

西野 130年という歴史は学校としての

歴史であるとともに、多くの卒業生達の思いの積み重ねであると思う。知道会は何のためにあるのかといえば、OBの親睦団体であることは間違いないが、それだけではなく、常に学校と在校生との繋がりをを持った活動をしていなければ存在意義は乏しい。これまでの各節目節目の事業も、130年の歴史の中で出会った人たちの繋がりと学校との繋がりの中で、水戸一高という伝統を再確認し、同窓会として何をなすべきかを検討しながら実施してきた。今回の130周年記念事業も、連綿と続く歴史の中の、「これまでの10年とこれからの10年」ということを念頭において検討したいと考えています。

沼尻 120周年では、苦労はしたが、県や市の予算で本城橋の架け替えが行われ

るなど、タイミングが良かった。今回も、卒業生と在校生の絆が深まるような記念事業が展開できればいいですね。

西野 これまでの知道会の記念事業活動は学校側の希望に沿う形でやってきた。記念事業に対して学校側がどういう考えを持っているのかを知りたい。

五味田 新年度の校内での会議などはこれからですが、130周年にあたっては、『水戸一高は今後こういう方針でやっていく』という、会長が言われた「これからの10年」の教育全体を考えながら学内で十分議論していきたい。もちろん、知道会との連携を密にして。

山形 お互いに今後の10年をどう考えていくかが大事ですね。

西野 友好校の秋田高校では既に130周



西野虎之介会長

年を迎えたのですが、その時行われた式典は同窓会主導。卒業生が中心で、座る席も卒業年次の順で、とても整然と厳粛に行われた式典でした。学校と同窓会との考えが合っていたのでしょうね。

山形 130周年の主役は学校。ただ、130周年を契機として何らかの事業、学校としてやりにくいものを知道会が支援できれば。

五味田 130年の伝統を、教職員全員が理解しなければなりません。自分たちにも同窓会組織や地域の協力が必要だということが分かってきました。

西野 課題となっている学校施設の整備やサービスの拡充などが、記念事業のテーマとして有力になるだろうと考えています。「代用講堂」というものも一案にある。今は体育館が講堂を兼ねていますが、専用とまでいかなくとも講堂の機能を持つ施設があるといいですね。学校と在校生、卒業生と一緒に考えていきたいと思います。

山形 秋田高校の校舎は、代用講堂として使えるようになっていた。

沼尻 秋田高校には学校林というものがある、その木で作ったんですね。杉の本場らしい発想だ。もし施設建設ということになれば、募金をすることになるでしょうが、大きな額は今のご時世ではちょっと。在校生達を鼓舞するような、あるいは在校生と共同して作り上げていくような事業も、130年の伝統を共有しあう意味で必要なことだと思う。

栗原 昨年、本校では「水戸一高中長期構想」を打ち出したが、130周年を機に、これからの一高への期待、また伝統をどう伝えていくのか伺いたい。

西野 現在、教育基本法の改正論議など戦後教育の変わり目に来ている。茨城県でも進学重点校の指導や高校の全県一学区制や単位制を導入するなど変わってきている。そこで改めて、130周年の意義の重さを感じています。

また、伝統行事である「歩く会」が小説になったり、映画化されたりして、水戸一高がこだわり続けてきた、ある種「古くささ」というか、一時はネガティブに捉えられていたものが、第三者からの評価が高くなっている。これらのことも、卒業生と在校生が伝統というものを共有できるきっかけになる



山形晴一前幹事長



五味田優校長

のではないのでしょうか。

山形 数年前、一高に来た時、校歌を歌いながら校舎の周りを掃除している女子生徒がいたけれど、現役の生徒たちも案外骨っぽいなと感じた。女性のほうが伝統の理念の継承に前向きではないかと感じた次第。在校生の4割が女子生徒という時代となつて、伝統の担い手として大いに女性に期待したい。

西野 昔、白線帽を被った水中生は東京に出ても一目置かれていた。自分では思っていないくても、周りの人たちは一高生を一高生として見る。理屈ではなく漂わせている雰囲気だと思うが、それが伝統とか校風とかいうもので、おそらく数多くの先輩方の生き方の積み重ねが作り上げてきたものなのではないのでしょうか。学校の格というものは、どれだけその学校が優れた人材を輩出してきたかで決まる。

栗原 一高の伝統の一つに自由な校風があります。

五味田 自由な校風には、良い面と悪い面がある。自主自律だどうしても生意気になり、格好を付ける。一方、責任が出てくるとしっかりとやり遂げる、そういう生徒が多いというのが一高生に対する大方の評価のような気がします。

沼尻 水戸一高生というのは、バンカラで通ってきて、人前では勉強せず家に帰って必死になって勉強していた。「格好付ける」と言われればそうだが、そういう生き方が美学としてあった。

五味田 現在は公立と私立の競争の時代。どういう教育理念を持ち、どう生徒を育てるかを競っており、水戸一高もその競争の中にいます。中長期計画でも「自己の目標の実現を目指し、社会性と自己決定力を身に付け、社会に貢献でき



沼尻滋副会長



栗原英則副幹事長





歩く会・勿来コース（昭和25年当時）

歩く会 ちよっく データ

【歩く会のはじまり】水戸中学時代の「鍛錬行軍」として、昭和16年11月3～4日、本校～村松～太田～本校の60kmで始められたのが最初であろう。参加者数・完歩者数は記録にない。【第2回鍛錬行軍】昭和17年10月25日～26日、本校～石岡～土浦～取手の82km、参加者数1,141名、完歩者数136名（完歩率11.9%）。低調！【第3回鍛錬行軍】昭和18年10月22日～23日、勿来～日立～本校の74.0km、参加者1,175名、完歩者数1,140名（完歩率97.0%）。好調！【戦後の歩く会】戦後間もない昭和24年10月8～9日から「歩く会」として発足した。平成17年10月8～9日で、戦後の歩く会は57回目を数えている。女子の頑張りも目立ち、完歩率は、近年95%以上！

る人材」を「目指す生徒像」として掲げている。

西野 卒業生と在校生が共有している価値観の一つに「至誠一貫」「堅忍力行」があるが、大体、高校生活での「刷り込み」によるものだと思う。一高を卒業して、それぞれ違う大学で教育を受けても、一高生の雰囲気を持っている。反骨精神旺盛で、決して組織人としては評価されないタイプだが、伝統は、しっかり継承されているような気がする。

五味田 生徒は3年間で卒業していくので、その時間の中で生徒たちに伝統というものをどう伝え、自分たちの学校をどう考えるのかを学ばせなければと考えています。まずは、卒業生を通して、生徒に何かを感じてもらいたいと思っています。同時に教員も考える…。その意味で、現在検討している卒業生の人材データベースは早急に立ち上げたい。

栗原 なかなかまとめきれないお話ですが、最後に西野会長にまとめていただきたいと思います。

西野 先ほどもお話ししましたように、今、伝統の再評価ということが言われていますが、水戸一高

のこの130年という伝統そのものが価値であり、魔力のようなものではないでしょうか。卒業してかなりの年数が経っても、本城橋を渡ると、若い日のことが思い出され、気分が高揚してくるのを感じます。一高独特の雰囲気、校風というのか、ひしひしと伝わってくる。体の中に水戸一高のDNAが移植されているような。このDNAはおそらく在校中に恩師や先輩・友人たちによって刷り込まれたものだと思うが、それを大事にしていかなければと思います。

その校風をベースに、学校としてはある意味でエリート教育を、単にいい大学特に東大に何人入ったかというような受験教育よりも、人生におけるエリート教育というか品格ある水戸一高らしい教育を目指していってもらいたい。そういう点で、先生方には父兄達との共通認識に基づく確固とした教育理念を持ってもらいたい。知道会としても、卒業生一丸となって水戸一高のこれからの10年を見守っていききたいと思っています。

代議員会議で第55期予算などを決定

知道会の議決機関である代議員会議が、平成17年11月12日（土）午後1時30分から常陽藝文センターにおいて開催され、常任幹事をはじめ、学年・地域・職域代議員約100名が出席しました。

西野会長と植木学校長のあいさつ後、議事に入り、永井幹事長、小野財務委員長の説明により、第55期（平成17年10月1日から平成18年9月30日まで）の事業計画や予算が決定されました。

今期は、母校創立130周年を2年後に控えて、それに向けた準備を開始。水戸一高創立130周年記念実行委員会の立ち上げや年会費の納入促進などが提案され、承認されました。

第7回知道会会員の集いに200名

平成17年11月12日（土）午後2時30分から、「第7回知道会会員の集い」が、常陽藝文センターにおいて約200名の参加者のもと、盛大に開催されました。

第1部では、八弉洋一郎氏（昭49卒）を講師に招いて「ウィルコムPHS逆転戦略」と題した特別講演が行われ、PHSの特色を前面に出した市場戦略について興味深いお話がありました。

第2部は、平山桂己氏（昭59卒）の司会でにぎやかに懇親会が行われました。西野会長、植木校長のあいさつ後に皆で乾杯し、マジックショーを交えながら歓談。旧交を暖めました。

会計報告

第54期 H16.10.1～H17.9.30
第55期 H17.10.1～H18.9.30

項目	54期決算額	55期予算額
収入		
収入合計	11,232,928	11,856,110
年会費	10,340,000	11,000,000
寄付金	21,000	0
預金利息	34	30
人会金会計より繰入	0	500,000
前期繰越金	871,894	356,080
支出		
支出合計	11,232,928	11,856,110
運営費	7,475,811	8,200,000
会員の集い費	606,277	700,000
会議費	150,281	150,000
事務局運営費	1,947,232	2,400,000
通信費	3,235,922	3,300,000
消耗品費	89,857	100,000
旅費交通費	148,530	150,000
渉外費	143,430	150,000
支部強化費	470,000	450,000
振替手数料	345,110	350,000
年会費徴収費	206,453	200,000
リース料	132,719	250,000
事業費	3,401,037	3,560,000
母校助成費	434,880	450,000
総務委員会費	40,000	80,000
財務委員会費	20,000	20,000
広報委員会費	2,596,157	2,700,000
名簿委員会費	10,000	10,000
親睦委員会費	300,000	300,000
予備費	0	96,110

10月

- 8～9日 歩く会・奥久慈コース
- 12日 54期決算監査
- 15日 にさし会同窓会
- 17日 財務委員会
- 22日 石岡知道会
- 22日 幹事会

11月

- 11日 昭和19年卒同窓会(城址会)
- 12日 代議員会議・会員の集い
- 15日 親睦委員会
- 24日 昭和28年卒同窓会
- 26日 昭和26年卒同窓会

12月

- 3日 西日本水中・一高会
- 14日 総務委員会

1月

- 2日 昭和39年卒同窓会
- 11日 親睦委員会
- 28日 行餘學會

2月

- 1日 委員長会議
- 4日 水戸知道会
- 25日 東京知道会(50周年)

3月

- 1日 卒業式
- 4日 昭和34年卒同窓会
- 15日 会員の集い第1回実行委員会
- 25日 茨城町知道会
- 29日 広報委員会
- 30日 創立130周年実行委員会

4月

- 1日 水戸下市知道会
- 7日 入学式
- 15日 水戸桜山知道会
- 16日 水戸みつば知道会

新任のごあいさつ



学校長
五味田 優

昭和59年から平成4年までの8年間、国語の教員として勤務しました。その際、知道会の名簿委員や事務局長として知道会の皆様には大変お世話になりました。特に、事務局長の専任化にご理解をいただいたことに大変感謝しております。

このたび、15年ぶりに母校に校長として着任いたしました。4月3日、校長としてはじめて出勤し、第二代目の本城橋を渡りながら、身の引き締まる思いでした。

水戸城跡のこの三の丸の台地には、多くの先輩たちが学び、生き方の基礎を培った歴史があります。真理を愛する「学問第一」の校風や「自主自立」の気風、校是である「至誠一貫」「堅忍力行」の精神、そういった学校文化とでも呼ぶべきものが存在する、そんなふう感じられました。同時に、ここで学びあえる生徒たちは幸せだなということ、そんな後輩たちを教えられる喜びを感じました。この気持ちを忘れずに校長としてやっていきたいと思えます。

私が教員として勤めた時から、本校をめぐる状況はさらに変化しています。まもなく130周年を迎えようとしている現在、教員がさらに指導力を高める必要がありますし、生徒諸君にも、今後の社会を担いリードする者としての高い志を求めたいと考えています。

時代は変わっても、本校には本県

教育のリーディング校としての責任を果たすことが求められています。知道会の皆様のご協力をいただきながら、全力で取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

お礼のごあいさつ



前校長
植木 行宏

今年の3月をもって、母校の水戸一高を退職いたしました。教員生活最後を母校の校長として勤務することが出来、教師冥利に尽きる思いでした。この間、西野会長を始め知道会の皆様には、日頃から熱い応援や激励を、また、学校行事には、物心両面にわたり格別なご支援、ご協力を戴き厚く感謝申し上げます。

水戸一高が輝かしい歴史と伝統を重ね、卒業生たちが地域や県内外でリーダーとして、社会の第一線で活躍している様子を見ると、頼もしく、また、大変勇気づけられました。このため、水戸一高のあるべき姿を見据えて、しっかりと将来のグランドデザインを構築しなければならないと決意を新たに、全職員と共に一丸となって取り組んで参りました。

平成17年度から本校は進学重視型単位制高校に生まれ変わっております。全学年に土曜課外を実施したり、夏季休業日の短縮を図り授業日を増やしたり、あるいは3学期制から2学期制に変更し学校行事を精選したりして、授業時間の確保を図るなど工夫をしました。

また、奨学会の全面的な協力を得



西野会長が35人を表彰

て、この夏普通教室にエアコンを導入し、ハード面も充実を図りました。生徒のもてる能力を開花させ進路実現が図れるよう方向付けをいたしましたので、皆さん、ご子息あるいはお孫さんを安心して水戸一高に向けていただければ幸いです。

なお、本校の質実剛健の気風を育む伝統行事は「歩く会」です。これを題材にした本校の卒業生、恩田陸さんの小説「夜のピクニック」が映画化され、昨年の夏は、本校のキャンパスを使って撮影が行われました。映画完成の暁に、皆さんが鑑賞したときには、青春の懐かしい一齣を思い起こすことでしょう。

このように在職中は、素晴らしい生徒と知道会と奨学会と職員に支えられ、沢山の素晴らしい思い出を育むことが出来、厚く感謝を申し上げます。最後になりますが、知道会の皆様のご活躍と水戸一高の更なるご発展を祈念し、御礼のご挨拶といたします。

知道会会長褒賞は35名

平成18年3月1日、本校の卒業式に引続いて、知道会褒賞授与式が行われ、西野会長から手渡された。活躍した受賞者を所属別にみると、吹奏楽13、弓道部7、山岳部4、演劇部3、その他8、合計35名となった。クラス別は次の通り。

【31組】市毛博之、渡邊啓史

【32組】熊岡知行

【33組】前島由佳、八文字悠子、野上絵理香、石川理絵、大和田淳也、小川真依

【34組】小沼遥香、大津雄太郎、根本まなみ

【35組】松本奈央子、佐川久美子、武士清亮、根本香織、吉田尚生、前島卓矢、江幡夏海

【36組】菊池大輔

【37組】本田賢志、鈴木海映、大森郁子、石川大智、君島加奈

【38組】小野寺翔、後藤まりえ、廣木聡美、桑山達彦、寺門直也、佐藤明、橘朋代、更田友紀子、高島久美

【24組】松宮就章

平成18年度定期人事異動

次の方々が異動された。カッコ内は教科と本校在籍年数である。

1 退職

植木行宏（校長、1年）
植田泰史（社会、10年）
割貝和子（書道、6月）

2 転出

秋山久行（教頭、1年）高校教育課へ
柴田京子（家庭、13年）勝田高へ
三村千春（理科、12年）小瀬高へ
渡邊洋子（数学、8年）竹園高へ
山田智子（主任、5年）勝田工高へ

3 転入

五味田優（校長）教育庁から
小田倉康家（教頭）友部高から
川野遼泰司（書道）茨城東高から
根田修（理科）土浦三高から
柏木恵子（国語）鉦田二高から
佐藤貴弘（数学）下館一高から
友常格（社会）太田一高から
吉川訓代（家庭）小瀬高から
住谷博史（数学）大洗高から
鞆脇淳子（英語）玉造工高から
水井英彦（国語）緑岡高から
山田奈美子（主事）勝田高から

大学入試の状況

新教育課程になって初めての大学入試が行われた。センター試験は、英語にリスニングテストが導入され、大幅な日程変更があった。

教育課程が変更されて初めてのセンター試験は、前年度より易しくな

る傾向が以前からあったが、今回も平均点が前年を上回った科目が多い。

平成18年度からは、後期日程を廃止し、推薦入試やAO入試に定員を配分する大学・学部がでてきた。326名の卒業生の大学入試結果は、国公立大学に102名が合格、私立大を含め187名が大学進学、実進学率は57.5%である。また、一人あたりの私立大の受験校数は、前年2.8校、今年2.3校で、0.5ポイントもの減少である。

大学別にみると、国立では筑波大学などで合格者数を増やしたが、東大や一橋大では、前年を下回った。私立大では、早稲田・法政・明治・立教が大幅に合格者数を伸ばした。

主な大学の合格者数を以下に記した。（ ）内は現役合格者数、昨年度との増減は△▼で示した。

●国公立大学

北海道大学	6 (2)	▼ 3
東北大学	21 (14)	△ 1
茨城大学	13 (11)	0
筑波大学	32 (24)	△ 2
千葉大学	8 (5)	▼ 9
お茶の水大学	4 (2)	△ 1
東京大学	8 (5)	▼ 5
東京外国語大学	6 (4)	△ 3
東京学芸大学	7 (4)	△ 5
東京工業大学	5 (1)	△ 3
一橋大学	4 (3)	▼ 4
京都大学	5 (3)	▼ 1

●私立大学

青山学院大学	15 (7)	▼ 8
慶應義塾大学	43 (11)	▼ 2
上智大学	10 (5)	△ 4
中央大学	39 (12)	▼17
東京理科大学	54 (16)	▼15
法政大学	35 (11)	△19
明治大学	78 (30)	△20
立教大学	45 (19)	△12
早稲田大学	83 (35)	△11

19回目の26会学年同窓会

2年毎の26会学年同窓会は地元は勿論、北海道、兵庫から116名の仲間が集い、平成17年11月26日、ホテルレイクビュー水戸で開催した。卒業後54年目、通算19回目の同窓会である。

司会は阿部君(8組)、冒頭、既に亡くなられた87名の学友に黙祷を捧げた。瀬尾会長から「古稀を過ぎたが喜寿、米寿、白寿までも頑張ろう」との挨拶があった。

続いて、恩師の石塚常雄先生、箕輪晋先生のご挨拶をいただいた。

次に、橋本昌知事(39年卒)の来賓挨拶、同窓の参議院議員小林元君(4組)の国政報告、大川英治知道会事務局長(29年卒)の現況報告と続き乾杯に到達した。乾杯の音頭は、卒業以来初めて出席という2組の小坪富士夫君と6組の関内実君が指名された。

乾杯後は暫く歓談、記念撮影のカメラマンは写真部だった市川晴雄君(2組)。カラオケでは東ヶ崎齋君(6組)の美声が流れた。

あっという間に終宴、1組の藤井俊雄君、長洲忠弘君の音頭で校歌を声高らかに斉唱し、握手を交わしながらを惜しみつつそれぞれクラス毎に水戸の街へ散って行った。

(2組S.T記)

みつば知道会総会・講演会

みつば知道会は4月16日、総会を開催し会長引継ぎがあった。会長・潮田正雄(昭25卒)氏の後を受け、飯村喜明氏(昭29卒)が新会長に就任した。

総会后、知道会会長西野虎之介氏からの特別講演「茨城の食をめぐる動き」をいただき、日本の食生活の文化とその乱れ、食と農の乖離・自給率の低下、そして今、動き出した

「スローフード運動」、和食の歴史の変遷と欧州の食文化などの背景を基にした食生活の変化などについて貴重なお話を伺った。

東京知道会50周年盛大に

2月25日(土)、サンケイプラザにて370名近い参加をもって「50周年記念同窓の集い」が開催された。今年度幹事学年の昭和52年卒同窓生155名の見事なチームワークで進行された。同窓生馬場章氏の「大人の知的チャレンジ」と題する記念講演をはじめ、幹事が水戸一高「歩く会」に同行し、加えて恩田陸さん取材し製作した同窓生へのメッセージが込められたビデオ上映があった。母校への懐かしき思いを想起され、暗闇の中で目頭をぬぐう同窓生が何人もいたようである。

当会は、昭和32年に茗溪会館にて「第1回在京水中一高会総会」として開催されたとのこと。母校を卒業して東京及び東京近県で暮らす先輩たちが故郷に思いを馳せながら心を寄せ合い励ましあうということで、立ち上げられたと聞く。こうして50年もの間、この活動が脈々と先輩から後輩に受け継がれてきた感慨を強く感じた喜びの1日であった。

最後に、西野虎之介知道会会長を始め、友部発夫土浦水中一高会会長、唐笠実大洗知道会会長代理、その他大勢の方々にご臨席賜り感謝申し上げます。(東京知道会事務局)

西日本水中一高会総会

師走に入った12月3日、大阪丸ビル6階にて西日本水中一高会の総会を開いた。現在会員総数は81名、当日の出席者は20名で、遠路また年末の御多忙の中、水戸一高の植木校長先生並びに知道会の大川事務局長の御臨席を賜り議事に入った。

まず大矢会長が挨拶。審議事項で



東京知道会で功績をたたえられた歴代会長

は新役員の提案があり、原案通り決定された。新役員は、会長に星野皓(昭26卒)、副会長に相馬一男(昭23卒)、東茂(昭29卒)、黒田京子(昭31卒)、平山寿一(昭31卒)、中島美繪子(昭32卒)、井内義興(昭33卒)の各氏、幹事は全員留任、会計幹事は海老沢(昭20卒)、皆川(昭35卒)、会計兼事務局には迎幹事(昭46卒)、顧問として大矢(昭20卒)、大久保(昭22卒)が就任した。そして星野新会長挨拶があった。

次に植木校長先生より、水戸一高の運営方針のご説明があり、我々も支援することを約束した。

続いて懇親会に移り年次を越えて盛んに会員の交流が行われた。なお元氣溢れる組はさらに二次会へと向かった。

水戸知道会

水戸市在住の知道会会員は5,000名を超える大所帯であります。一つの地域として纏めるのは大変で、通常の活動は10のブロックが特色を生かして活動しておりますが、2年に一度は全体の水戸知道会を持つということで、本年2月4日(土)、大工町「魚政」に70名が参加して開催の運びとなりました。

宮田副会長の開会のあいさつに続き、田中会長のあいさつがあり、特に昨年合併した内原地区に内原知道会を作りたいとのことで、内原地区から参加された方々を紹介いたしました。近いうちに発足されること

映画撮影監督の川又昂氏 石川 禎紀 (昭30卒)



行餘学会

を期待しております。

※記念講演 講師：菊池興安氏
(S 31 卒) 元県警参事官

※懇親会 水戸桜山知道会大澤
会長の発声で乾杯、懇談は盛
り上がり最後に全員で校歌斉
唱して散会した。

行餘学会総会

行餘学会は、旧那珂湊地区(現ひ
たちなか市)で、明治30年代か
ら100年以上も続く伝統ある会
です。会の名称は、「論語」の学
而編の中にある「行いて餘力
あらば即ち以て文を學べ」か
ら取っております。

その行餘学会の平成18年総
会が、平成18年1月28日(土)、
上は昭和12年卒から下は平成
4年卒まで59名の出席のもと、
地元の春日ホテルで開催され
ました。

毎回会のOBに講演会の講師
をお願いしており、今回は常陽
銀行の鬼沢邦夫頭取(S38卒)に
「当行が目指している人材像」
という演題で講演をお願いいた
しました。示唆に富み頭取の謙
虚なお人柄が伝わる素晴らしい
講演でした。

続く総会では、大和田一会长
(S31卒)のあいさつの後、大川
英治知道会事務局長から来賓
あいさつをいただき、氏の永年
の労をねぎらって記念品贈呈
も行われました。

その後は懇親会で盛り上がり、
最後は恒例の全員による校歌
斉唱で閉会となりました。

小唄康則 (S 57 卒)

映画というと、監督は誰か、がまず話題になるであろう。本校卒では故深作欣二(昭23卒)、柳町光男(昭38卒)、小泉堯史(昭39卒)の諸氏がいる。監督の次は俳優、脚本家で、撮影監督は日本ではそれほど注目されない。

そのカメラマンの大御所として、川又昂氏(昭19卒)がいる。市内本町に生まれ、タカちゃんと呼ばれたタカシ少年は家にあったカメラに早くから親しみ、水中時代は禁止の映画館通いをした。ときに体罰をうけ、職員室の掃除をさせられたが、初志をまげず日本映画学校に進み昭和20年に卒業。巨匠小津安二郎監督のカメラマン厚田雄春の撮影助手5人組の末席に連なり、第一歩を踏み出した。

34年、撮影監督に昇進。大島渚監督「明日の太陽」や野村芳太郎監督「どんと行こうぜ」を撮った。

野村監督とは35年に「銀座のお兄ちゃん挑戦す」「黄色いさくらんぼ」「最後の切札」などを撮り、以後このコンビで総数61本に及び、なかでも代表作といわれるのが49年の松本清張「砂の器」で、今もファンに絶大な人気がある。殺人犯となる音楽家(加藤剛)の宿命を縦軸に、事件を追う刑事(丹波哲郎・森田健作)を横軸にした社会派ミステリー作品。いわれなき差別をうける親子の旅は涙を誘う。

冬の場面は竜飛岬、春は杏の里の信州、新緑は奥久慈の男体山、夏は島根。奥久慈は中学時代に写真撮りに行って、いつかのあたりが使えるのではないかと、思った



故深作欣二監督と談笑する川又昂氏(右)

という。試写会終了後、松本から「俺の原作を超えている。橋本、野村、川又トリオの創る映画を信頼する」と感謝されたという。松本作品は全7作を担当した。

今村昌平監督の「黒い雨」は平成元年の作品、カンヌ映画祭で映画祭高等技術院大賞をうけた。

深作も水中時代、映画館に入り浸った。日大に入学するや、尋ねた氏に「映画なんて、つまらねえ。こんな商売やめろ」と言われたという。彼の作品では44年の「黒薔薇の館」、57年の「道頓堀川」を撮った。深作の監督現場は茨城弁丸出しで、笑い声が絶えなかったといわれる。

約90本の映画を撮影した氏は数々の映画賞をうけた。平成3年紫綬褒章、8年勲四等旭日小綬章に輝き、現在日本映画撮影監督協会名誉会員である。15年は小津生誕百年にかかわる仕事にかり出された。昨年は画像修復の監修をした「砂の器」が公開されて話題を呼んだ。今も多忙だが、水中時代には陸上1600米のリレー走者として旧制水高の相手に負けなかったという健脚をもつ頑健な身体、なかなか悠悠自適にさせてくれないのが悩みのようである。

知道会事務局長として14年 退任にあたって

平成4年5月に元会長 山本満男様の命を受け就任以来約14年間の長い間多くの先輩や会員の皆様にご指導ご協力を得て無事大役を果たすことができましたことに深く感謝申し上げます。

その間、年会費制の導入や評議員制から代議員制に移行すると共に、会員の集いの発足等、幾多の変遷がありましたが、お陰様で何とか軌道に乗りました。これからは種々の改革が進められることと思いますが会員の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。後任には、昭和32年卒業の北條勝彦氏が就任いたしますので、私同様よろしくお願い申し上げます。

最後に会員の皆様のご健勝と知道会の益々の発展を祈念して挨拶いたします。

平成18年3月31日 大川英治(昭29卒)

総務委員会

母校は平成20年に創立130周年を迎えることから「水戸一高創立130周年記念事業実行委員会」が組織され、第1回目の会合が3月30日に持たれました。事業の骨格を早い時期に作り、学校や奨学会と打ち合わせてよりよい事業としたいものです。委員会では、記念事業について様々な意見が出されていますが、それも資金があつてこそ。会員の皆様には、年会費納入について引き続きのご理解ご協力をお願いします。

知道会会員の集い(第56期)の第1回実行委員会が3月15日に持たれました。集いは10月29日(日)に水戸京成ホテルで開催予定。今回の当番学年幹事は、50年卒の篠崎達志、江戸雅雄、清水修、60年卒の須田浩和、佐藤則行、斉藤順、原口哲也、毛塚裕之、H7年卒の星野久史、湯口英器、山内一豊、原田貴弘、茂木文恵、桜井智則の各氏です。集いは世代を超え、地域を越えた交流の場です。多くのご参加をお待ちしております。

財務委員会

知道会に親しみを感じるようになったのは財務委員に委嘱されてからのことです。これまで関わるきっかけがなかったので話題にも上らなくなっていた矢先でしたが、「これも何かのご縁」と思い、会員の集いにも数年ぶりに友人に連絡をとり誘ってみたところ、意外にも快く遠方より参加してくれました。

若い世代も決して関心がないわけではないでしょう。声をかけみると思った以上に反応がよいはず。財務委員会というより、知道会全体の課題の1つとして会費納入実績の向上がありますが、知道会を身近に感じられれば会費の納入忘れも少なくなるのではないのでしょうか。さらに活動全般に工夫を凝らし、積極的に働きかけをする必要があるかもしれません。

財務委員会としても、もっとスムーズに会費を納めていただけるよう口座引き落としなど納付方法の検討も含め議論しています。今期は5,500人が目標ですが、半期を過ぎての実績は3,870人です。更なる活動充実のため皆さまのご理解ご協力をお願いします。

仲田留美

名簿委員会

平成20年に母校水戸一高は創立130周年を迎えます。それを記念して会員名簿の発行を準備しております。本年秋口には調査カードが各人宛に発送される予定です。個人情報保護など気に懸かることがあると思いますが、是非ご協力を頂き立派な

名簿にしたいと考えております。発行時期は平成19年6月ごろを予定しています。なお、広告掲載にも特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

親睦委員会

●第3回OBミニ歩く会

第1回は千波湖と逆川緑地、笠原水道。第2回は静神社と古徳沼。第3回は、好文橋前から桜山、県歴史館、偕楽園を経て千波湖を一周する約7キロのコースを設定しました。県ウォーキング協会の指導員である川上清氏(29年卒)や、本校卒の水戸市偕楽園ボランティアガイドによる案内を予定。10月のさわやかな1日をご家族でウォーキングをお楽しみください。

実施期日・平成18年10月1日(日)

集合・千波湖好文橋前公園9時30分 出発・10時00分
会費・1000円 ※簡単なお弁当をご用意します。

●知道会親睦旅行

日本の文化と歴史を訪ねる旅、今年度の知道会親睦旅行企画は伊豆一周コースです。

今回の見所は、三島大社、明治26年大正天皇ご静養のために造営された沼津御用邸、達磨山より富士山遠望、下田では日米下田条約締結の地である了仙寺見学、伊東では昭和初期の建築様式を残す木造三階建ての和風旅館東海館などを巡ります。

実施日・平成18年9月3日(日)～4日(月) 1泊2日

会費・おとなお1人22,000円 募集人員・35名
宿泊地・堂ヶ島温泉ホテル(予定) ※全行程貸切バス利用

●第27回ゴルフ大会

本年は大会史上はじめての「静ヒルズカントリークラブ」での開催。当クラブには、隣接するホテルに岩盤浴もあり、また、シニアの方のためにゴールドティも用意しました。皆様方のご参加をお待ちしております。なお、ご家族の方のご参加も大歓迎です。

期日・平成18年6月8日(木)

会場・静ヒルズCC

競技規定・18ホールストロークプレー(新ペリア方式)

参加費・5,000円 プレー費・11,500円(プレー費、昼食、キャディフィー、カート代含む)

●お問い合わせ・お申込み

知道会事務局 北條まで(月・水・金)

TEL 029-226-3960 FAX 029-226-4157

物故者 (H17.4.1～)

昭26 添川一郎 17.4	昭18 紙谷四郎 17.8.30
昭34 加藤晃 17.4.3	昭39 東谷希樹 17.8.30
昭30 横山圭享 17.4.9	昭16 江戸守次 17.9.7
昭26 小堀拓義 17.4.26	昭17 荒張忠朗 17.9.8
昭53 於保裕美子 17.5	昭23(中)小谷田進 17.9.9
昭28 黒沢昭 17.5.20	昭2 橋経雄 17.9.12
昭13 山本(大河内)毅 17.6	昭37 江橋(袴塚)勝夫 17.10.1
昭27 立原弘光 17.6.1	昭9 飯田一夫 17.10.2
昭26 岡崎満雄 17.6.4	昭33 松本忠彰 17.10.3
昭18 花田善四郎 17.6.7	旧職員 名越時正 17.10.11
大14 沼田吉次郎 17.6.12	昭32 菅伸生 17.10.19
昭13 寺門佳一 17.6.22	昭25 芝山和久 17.10.27
昭15 竹谷清 17.7.19	昭4 益子勇作 17.10.28
昭32 堀江荘一郎 17.8	昭26 小林貞樹 15.10.29

昭17(中)神田信夫 17.11
昭30 山崎偉 17.11
昭58 浦島隆人 17.11.6
昭29 増子和夫 17.11.14
昭26 横田義彦 17.11.29
昭17 木村寛 17.12.21
昭22 川又浩 18.1.1
昭30 軍司勤 18.1.8
昭25 飯田豊 18.1.16
昭19 飯野光夫 18.1.23
昭27 稲田房夫 18.1.28
昭22(中)大沢茂男 18.3.8
昭23(5)梅原英男 18.3.15

【事務局だより】

平成18年3月31日をもって大川英治事務局長(昭29卒)が退任されました。約14年間、会務の進捗管理、同窓会や支部活動の支援等にご多大なご尽力をいただき、誠にありがとうございました。後任には、北條勝彦氏(昭32卒)が就任いたしました。会員の皆様には前任者同様どうぞよろしくお願いたします。